

学生×NGOで取り組む！ 地域～世界の課題に発言・提案しよう！

1 目的・概要

本プロジェクトでは、大量生産大量消費の現代を問題視し、今後の消費社会の中心層となり未来を担っていく若者に「エシカル消費（倫理的消費）」を知ってもらうとともに、これから実行に移してもらうことを目的としました。春学期は企業やNGO団体の方々からエシカルについてのお話を伺いエシカル消費を広めるにはどのようなアプローチ方法が的確であるかを考え話し合いました。その中で、ものを購入して利用し処分するまでが消費活動であり、その一連の流れの中すべてにおいて人や社会、地球環境、地域に配慮することが重要であると気づきました。そして、秋学期は「服の交換会」を主とするイベントを実施しました。



Annual Schedule

- | | | |
|-------|-----|---|
| 2018年 | 4月 | レイティング、アドボカシーの理解 プロジェクト進行の理解 |
| | 5月 | プロジェクトテーマ選定 企画構想 |
| | 9月 | アンケート調査実地 企業訪問（環境市民、シサム工房、京都市消費生活センター） |
| | 10月 | イベント開催決定 SNS運用開始 |
| | 12月 | イベント“Ethical×Clothe”開催 イベントのクロージング |
| 2019年 | 1月 | 秋学期成果報告会 |



2 成果達成度



私たちは誰しもが毎日必ず行う消費活動に着目し、「人や社会、環境に配慮した消費行動であるエシカル消費を広め、実行してもらう」ことをテーマに据えました。当初、私達は「商品を購入する」という行為に着目し、どうすれば若者にエシカルな商品の魅力・価値を伝えることができるかを中心に考えました。しかし、企業や団体の方々を訪問し、お話を伺ううちに購買行動のみではなく、ものを購入して利用し、処分するまでが消費活動であり、その一連の流れの中すべてにおいて人や



社会、地球環境、地域に配慮することがエシカル消費なのであると考えるようになりました。

そのような捉え方をした時、私達がターゲットとする若者にとって最も身近な消費財である洋服を扱うアパレル業界に存在する大きな問題に気付きました。日本のファッション業界、特に若者の間での流行り廃りのスピードはとて速く、大量生産、大量消費、大量廃棄されているのが現在の状況です。これらの状況を踏まえ、私達は若者に「エシカル消費」に触れてもらい、その推進の担い手になってもらう入り口となるイベントを行うことを考えました。イベントでは要らなくなった服を持ってきてもらい、その服を他に必要としている人に譲ることで「エシカル消費」を広めることを目的としました。それに加えて、服の交換という行為を通じて、私たちが普段使用している服は児童労働や、劣悪な環境の中で作られたものだということを知ってもらう工夫（具体的にはパネルや、企業・団体等による講演）を施すことで、エシカル消費の大切さを理解してもらい、参加者の今後の購買活動に影響を与えていくことをねらいとしました。

全体を通し、私たちの活動は二種類の人に影響を与えたと考えています。一つ目はエシカルという言葉に何の関心もなかった人に対してです。このような人々にも参加してもらうために、人通りが多い寺町通の



mumokuteki hall という場所を選びました。また、フライヤーや内装にこだわり、SNSや店頭での宣伝に力を入れました。その結果、プロジェクトの活動以外の部分に興味を持ってイベントに参加して下さった方が多く、イベント終了後のアンケートでは「今後エシカル消費をしていきたいと思う」という回答が8割を超えました。二つ目はもともとエシカルという言葉キーワードとして取り組んでいる企業や団体などに対してです。私たちの「エシカルという言葉に興味を持っていない若者をターゲットにする」ということに対し、企業や団体の方々から「元々興味を持っている層を中心に宣伝、集客をした方がイベントとして成功しやすいのでは」というアドバイスを受けていました。しかし無事75名もの来場者を集め、イベントが成功に終わったとき、企業の方々に「オープンな場であっても、固いテーマのイベントが成り立つことがわかり、勉強になりました。」という言葉いただきました。私たちプロジェクトメンバーももともとエシカルという言葉に興味を持っていたわけではなかったのですが、実際に関心のない若者の立場に立ち、客観的な学生目線の意見を提供することができたと思います。

3 プロジェクトを通じて

プロジェクトを進めていく中で「プロジェクトメンバー全員で進めることの大切さ」を学びました。はじめは一人に仕事が集中してしまうこともあり手探り状態でした。しかし議論を重ね作業を進める中で、メンバーそれぞれの個性に気づきました。デザインセンスがとても良い人、集客、接客が向いている人、事務作業をこなしてくれる人、メンバーをまとめてくれる人…誰の個性も壊さず、全員の得意なことを活かしていくことで、全員が責任感を持ち、一緒に協力して進めることができたと思います。私たちの一年間の活動でエシカル消費が広まり問題が解決に至るわけではないですが、解決に向けた小さな一歩にはなったのではないかと考えています。



編集後記

企画立案から実施まですべてを自分たちで行うのは本当にやりがいがあり、楽しいものでした。素敵なイベントを開催することができたこと、来場者や関係者の方々から良い反応をいただけたこと、メンバー全員でやり遂げることができたこと、すべてかけがえのないものとなりました。新川先生、加藤先生、TAの安藤さんをはじめ、様々な方々のご協力があって一年間やり遂げることができました。本当にありがとうございました。

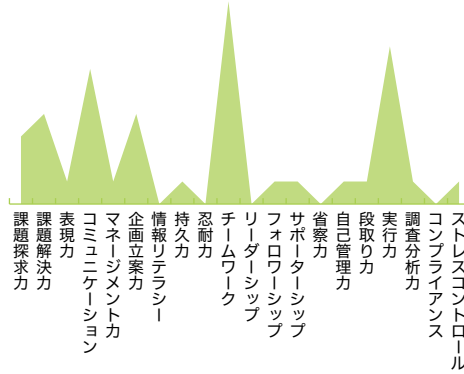
プロジェクトメンバー

宮崎 夢美(法2) 田畑 のぞみ(法3) 崔知榮(神3) 井川 翔(政策3) 石谷 侑斗(政策3) 平井 歩夢(法3)
木脇 愛海(社会3) 大森 絵莉菜(文3) 服部 優衣香(経済2) 鳥内 颯人(経済2) 鶴澤 咲絵(政策2)
安藤 理(TA)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

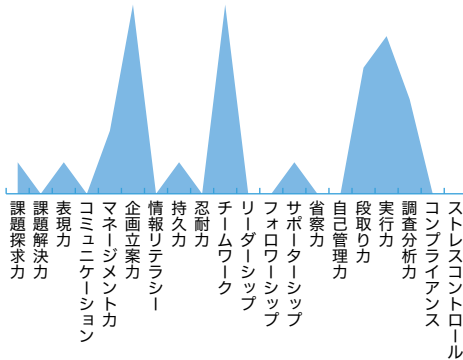
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

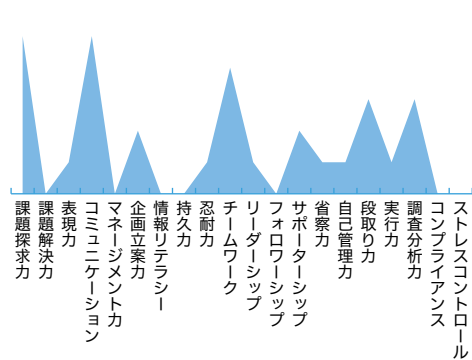


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

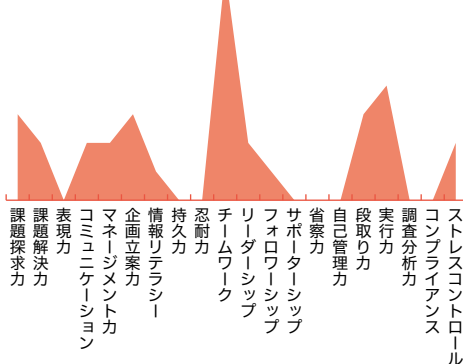


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

